

富山県東砺波郡から移住した祖父母、父岩滝幸一郎さん(昭和56年、80歳で逝去)、母ヒナさん(没年不詳、83歳で逝去)とともに旧神楽村(現東神楽町)に移住。6人兄弟の3番目の二女として生まれ育ちました。

1944(同19)年、東神楽村尋常小学校高等科を卒業。卒業後3年間、同村の郵便局に勤め、家業の農業を手伝いました。

1950(同25)年、21歳で1歳年上の実さん(平成9年、69歳で逝去)と見合い結婚。東川へ移り、江口農機具店を開きました。農具の部品の取り扱い、製造、販売までを手広く商っていました。

「嫁入りしたのは3月23日。冬だったから馬そりだったよ」とその思い出は今も色褪せません。

農家の要望に応えるため、「材料の木材を乾燥させたり、積み置き場がなきゃならない」と北町に製造場と住宅も建てました。農機具店のきっかけは、旭川市豊岡で農業をしていた義父の農工具修理の腕前。「越中鍬なんかは『じいちゃんが入れたのは外れない』ってね。それで、じいちゃんとうちと弟で始めたんだよ」。手押し除草機、バチバチ、馬そりの道



具、子供のそりも作ったよ。私はその釘抜きやら、床紙に油を塗って苗の床場作ったり…。直播もやったり、越中鍬であぜも塗ったよ。田んぼは今みたいに四角くないから縄張ったり、除草機押したり大変だった。なんでもしていたよ」。

1955(昭和30)年に長男を生むと、出産後わずか1週間で仕事を再開したほど多忙だったそうです。

1967(昭和42)年、現在の東川電気(北町2)の場所で雑貨店「江口商店」を開業。20年間、駄菓子、雑貨、玩具などを売っていました。

「あのころは新興住宅街だったから子どもたちがたくさんいたし、次々と新しく家を建てるから、大工さんに飲み物が売れたね」。

商工会婦人部の友だち同士が集まって、ボランティアをする「みすず会」に入って特別養護老人ホーム・羽衣園でシーツ交換ボランティア活動を続けてきました。女性部の友人と「婦及会」も作り、友達同士でよく旅行にも出かけていたそうです。

「おかげさんで私は元気で来たけれど、お友だちはいっぱいいたのに、もういなくなつて寂しいよ。なんか夢のようだね」。

俳句

誰ぞ知る想い重ねて松ぼっくり

過疎の村人より多い案山子かな

また一枚刈田増えゆく夕まぐれ

大漁が港に響き秋うらら

うたた寝の膝の陽溜り秋うらら

案山子立つ肥料袋を身にまとい

荒れた広い野原に一本の案山子

秋うらら子の背のトンボゆるり飛ぶ

芋畑小さな軍手もはりきって

今年米祖父の茶碗に注ぎにけり

芋掘って掘って地平を折り返す

過疎の里案山子も加えジンギスカン

子等笑い栗も笑って拾われ

空席に折りヅルひとつ原爆忌

寝返れば窓た、く雨秋思かな

こばやし 星来

横田 則子

石澤 清宏

三島 智

若田 郁

本田 咲

佐々木 りえ

斎藤 夕桜

山内 みゆ

由川 真人

小林 ろば

杉山 ひろのり

保科 なほ

徳光 吐苦

杉山 りつ

